

**子ども達が泳げる天然河川を  
未来へ手わたそう！**



# 最上小国川ダム建設が強行されています!! 鮎釣りに年間3万人訪れる清流、最上小国川。

**漁業権をもつ、小国川漁協は反対を貫いています。  
漁協の同意なくダム本体着工はできません。  
周辺工事は全く税金のムダになります。**

**穴あきダムは清流環境や生態系を破壊します。**

- 供用6年の最新型穴あきダム「益田川ダム(鳥根県)」はダム本体と副ダムの間に土砂やヘドロがたまっています。益田川は、工場廃液が流れ込む漁業権がない川。穴あきダムはまだ、小国川のような清流環境につくられた例はありません。
- 県の委員会では検討不足であり深刻な漁業被害も心配される。(河川生物調査事務所 高橋勇夫)
- 穴あきダムはダムの延命策でしかない歴史的な愚行だ。(元京都大防災研所長 今本博健)



ダム本体と副ダムの間にヘドロや土砂が堆積していた。



「環境にやさしい」実績も根拠もない穴あきダム。



土砂堆積し、河道に迫り出す旅館も。



県がつくった堰が土砂堆積、水害の原因をつくりだしている。

## 赤倉流域の河道改修、温泉街の再生事業こそ 小国川流域の生命と財産を守る。

- 温泉旅館の湯量確保のために県がつくった堰が、川底に土砂をため、川床があがって、水が流れにくくなり、水害を発生させています。
- 赤倉温泉の水害は、そもそも低い場所にある家々が浸水する「内水被害」です。ダムでは解決できません。穴あきダムの超過洪水時には、被害が増大します。
- 赤倉温泉流域は土砂が堆積し、護岸で川を狭めるなど、極めて不自然だ。温泉街を守るには80億円のダムよりも河道改修が先決だ。(新潟大名誉教授 大熊孝 今本博健 桑原英夫)
- 温泉湯脈に影響を与えずに河道掘削等をおこなう事は可能だ。(山大 川辺孝幸)

## 小国川の鮎は、年間22億円の経済効果を流域にもたらしている。ダムで環境が破壊されれば、 年10億円の損失になる。(近畿大 有路昌彦研究室)

- 熊本では支流の川辺川ダムを中止し、9月1日から荒瀬ダムを撤去し、川を再生しようとしている。その時代に新たなダムで清流を破壊するのか？
- 地域の延命策としてダム事業にたよるとするのは全く愚かな話だ。(元山形大学教授 桑原英夫)
- ダム事業の8割が中央のゼネコンの仕事で地域は潤わない。(衆議院議員 田中康夫)



鮎と清流が交流人口を支えてきたのでは？



天皇献上品、松原鮎の食文化を失って良いのか？

**ダムによらず清流を活かし、温泉の集中管理、赤倉流域の河道改修、  
下水処理等の温泉旅館街の再生事業こそ流域の持続可能な道では？**